

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
社会・地理歴史・公民ワーキンググループ（第3回）
議事次第

1. 日 時 平成28年1月25日（月）13:00～15:00
2. 場 所 文部科学省3階3F1特別会議室
3. 議 題 (1) 社会・地理歴史・公民の改善充実について
(2) その他
4. 配布資料
 - 資料1 社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおけるこれまでの主な意見（未定稿）
 - 資料2 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ（第2回）配布資料（抜粋）
 - 資料3 高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおけるこれまでの主な意見（未定稿）
 - 資料4 高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム（第2回）配布資料（抜粋）
 - 資料5 研究開発学校制度「地理基礎」「歴史基礎」の開発・実践（高木委員発表資料）
 - 資料6 社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける検討事項（社会・地理歴史・公民ワーキンググループ（第1回）配布資料）
 - 資料7 「歴史総合（仮称）」の方向性・特色・構成イメージ（たたき台案）
 - 資料8-1 「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（たたき台案）
 - 資料8-2 授業実践事例集～地理総合（仮称）～
 - 資料9 特別支援教育、情報に関わる資質・能力、健康、安全等に関わる資質・能力に関する議論について
 - 参考資料1 学習指導要領等の構造化のイメージ（論点整理補足資料抜粋）
 - 参考資料2 全ての生徒に共通に育むべき資質・能力と、高等学校各教科の必修科目の関係等（論点整理補足資料抜粋）
 - 参考資料3 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ委員名簿

「歴史総合(仮称)」の方向性・特色・構成イメージ(たたき台案)

育成すべき資質・能力

「歴史総合(仮称)」では次の資質・能力を養う。

- 歴史を考察する手立て(視点や方法)を用いて、現代の諸課題の歴史的背景を追究する力
- 諸資料を適切に活用する技能
- 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質

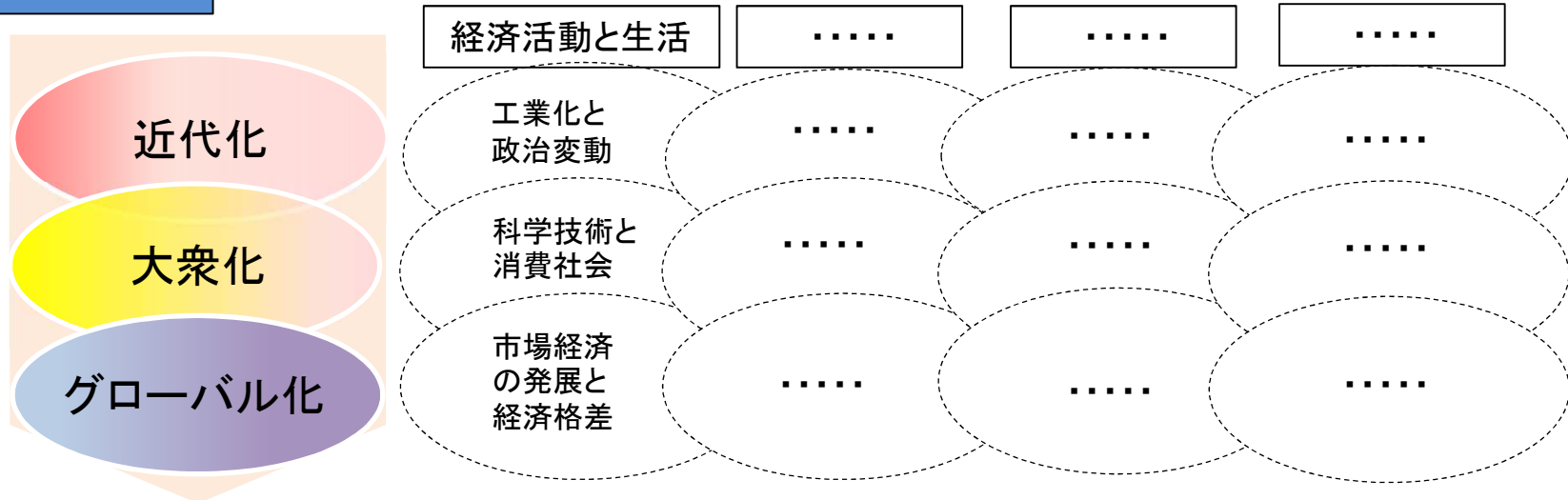
歴史を考察する手立て(視点や方法)(例)

- ・比較 (類似と差異)
- ・因果 (原因と結果)
- ・相互作用 (関係性やつながり)

➡ を用いて

- 多面的・多角的に吟味する
- 資料に基づいて解釈する

構成イメージ



(参考) 現行高等学校学習指導要領における歴史系科目

歴史系A科目の内容のまとめ

【科目の導入】

世界史A

(1)世界史への
いざない

【内容】

(2)世界の一体化と日本

(ア ユーラシアの諸文明)
(イ 結び付く世界と近世の日本)
ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化
と国民形成
エ アジア諸国の変貌と近代の日本

(3)地球社会と日本

ア 急変する人類社会
イ 世界戦争と平和

ウ 三つの世界と日本の動向
エ 地球社会への歩みと課題
オ 持続可能な社会への展望

日本史A

(1)私たちの時
代と歴史

(2)近代の日本と世界

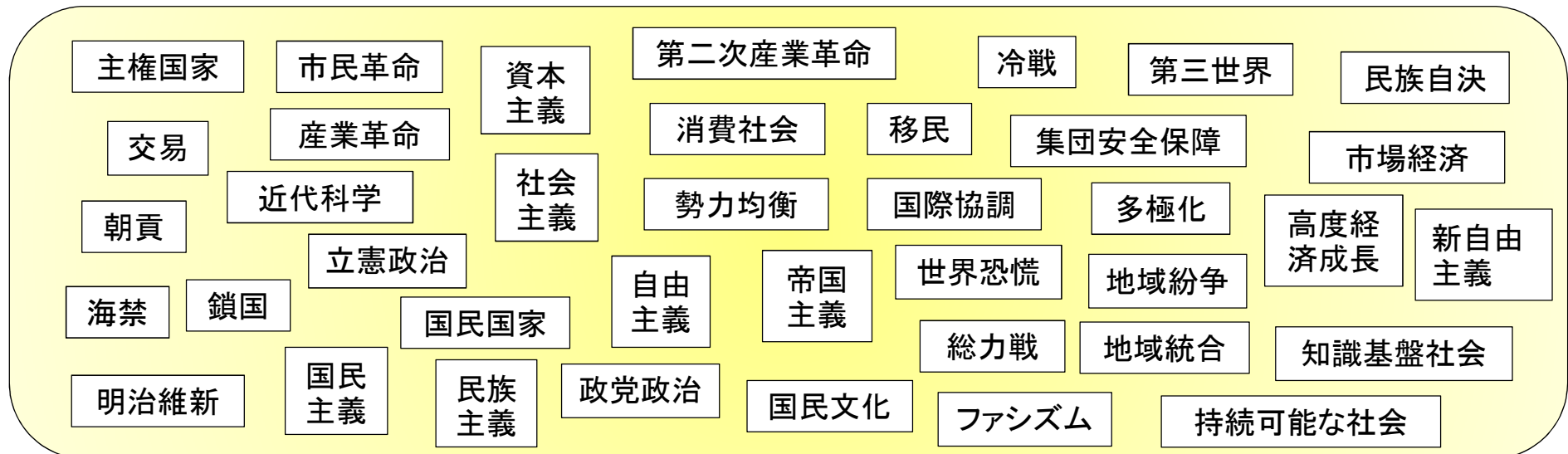
ア 近代国家の形成と国際関係の推移

イ 近代産業の発展と両
大戦をめぐる国際情勢
ウ 近代の追究

(3)現代の日本と世界

ア 現代日本の政治と国際社
会
イ 経済の発展と国民生活の
変化
ウ 現代からの探究

世界史・日本史に共通する主な学習の題材



「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（たたき台案）

平成28年1月25日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料8-1

項目構成(案)

重視する思考力, 判断力, 表現力等

問い と授業展開のイメージ

(⇒詳細は、別紙資料参照)

「地理総合」(仮称)

(1) 地図と地理情報システムの活用

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性と国際理解

イ地球的な諸課題と国際協力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア自然環境と災害対応

イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

- 地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力
- 考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力
- 自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力
- 考察したことを、資料を踏まえて説明する力
- 地球規模で見られる諸課題(環境, 資源・エネルギー, 人口, 食料, 住居・都市, 民族・領土等)について多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、根拠を明確にして議論する力
- 国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、資料にまとめて説明する力
- 生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力
- 構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「地理的な見方や考え方」を用いた授業設計

問いを重視した授業展開

㉗ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合せを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

㉘ どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

㉙ なぜウガンダでは、生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

㉚ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

㉛ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

<補足；「学習の系統性, 段階性」>

- ・(1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2), (3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・(2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握, 考察したことを基に、「イ」で議論, 構想(展望)する。
- ・(2)で学んだ各地の諸課題への対応策を、(3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)